



30

蓬萊の玉の枝
いにしえの心にふれる
いろは歌

「竹取物語」から

ねらい

- ① 仮名遣いに注意して読もう。
物語の展開・内容を理解し、古典の世界にふれよう。

ウォーミングアップ



読解の道しるべ

竹取物語 「かぐや姫」の話として知られている。

- ・年代……平安時代の初め頃に作られたと考えられている。
- ・作者……不詳。

・日本最古の物語といわれている。

・「源氏物語」では、「物語の出で来はじめの親」と評されている。

竹の中から生まれ、竹取の翁夫婦に大切に育てられたかぐや姫は、美しく成人する。五人の貴公子や帝が求婚するが、かぐや姫は応じようとしない。その後、中秋の名月の夜、天から降りてきた迎えの人々と共に、かぐや姫は月の都へと帰ってしまう。

◆古典の仮名遣い（歴史的仮名遣い）を現代仮名遣いに直すときの原則

1 語頭以外のハ行の音は「わ・い・う・え・お」とする。

(例) あはれあわれ 言ひける言いける

2 「を」を「お」とする。

(例) をかしおかし をとこおとこ

3 「ゐ」を「い」、「ゑ」を「え」とする。

(例) ゐるゐる こゑこゑ

4 「ぢ」を「じ」、「づ」を「ず」とする。

(例) なんぢなんじ いづれいづれ

5 「au」「ou」「iu」「yu」などとする。

(例) まうす(au) まうす(ou) まうす(iu) まうす(yu)

あやしう(aisyuu) あやしう(aisyuu) あやしう(aisyuu)



読解の道しるべを参考にして書こう。

日本で最も古い
とされている。
時代初め頃に作
られたと考えられている。

漢字・語句を確認しよう。

1 線の読み仮名を書きなさい。

① 斜面を駆け下りる。

② 帝から御文をたまわる。

③ 部屋に籠もる。

④ 冒頭の一文を暗記する。

⑤ 恐ろしい事件が起きる。

⑥ 用件を承る。

⑦ 名所を訪れる。

⑧ 天女の羽衣。

⑨ 子供を授かる。

⑩ 求婚に応じる。

⑪ 心を閉ざす。

⑫ 罪を犯す。

⑬ 竜となって昇天する。

⑭ 使者を遣わす。

2 線の片仮名を漢字で書きなさい。

□① 夢をアキラめない。

□② オクリ物にリボンをかける。

□③ 卒業証書をツツに入れる。

□④ ズボンのスソを折る。

□⑤ 王にメされる。

□⑥ ムスメが一人いる。

□⑦ かぐやヒメの物語。

□⑧ 新記録にイドむ。

□⑨ 全くミオトリしない。

□⑩ お茶に菓子をソえる。

□⑪ 痛みをウツタえる。

□⑫ 額をフせる。

3 次の各問いに答えなさい。

(1) 次の語句の意味を後の□の中から選び、書きなさい。

□① あまた

□② よろづ

□③ いはく

□④ 翁

□⑤ 嫗おうな

□⑥ 今は昔

おじさん おばあさん たくさん 言うことには
聞いた いろいろ 今ではもう昔のことだが

(2) 次の——線の部の語句の意味として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

□① 事情を聞いたが、かたくなに口をつぐんだ。

ア それまでとは態度が変わる様子。

イ 態度がつつしみ深い様子。

ウ とまどいを隠せない様子。

エ 主張や態度を頑固に変えない様子。

□② 危なっかしい手つきを見かねて、手伝う。

ア 見て見ぬふりをして。

イ 見ていられず。

ウ 見たことがなく。

エ 見そこねて。

(3) 次の①～③の読み方を、現代仮名遣いに直して、全て平仮名で書きなさい。

□① よそほひ

□② 言ひ伝へたる

□③ うつくしうてゐたり

いろは歌

教科書 p.154～p.155

1 「いろは歌」について述べた次の文の□に入る漢数字を答えなさい。

いろは歌は、

文字の仮名を

回ずつ使って作られて

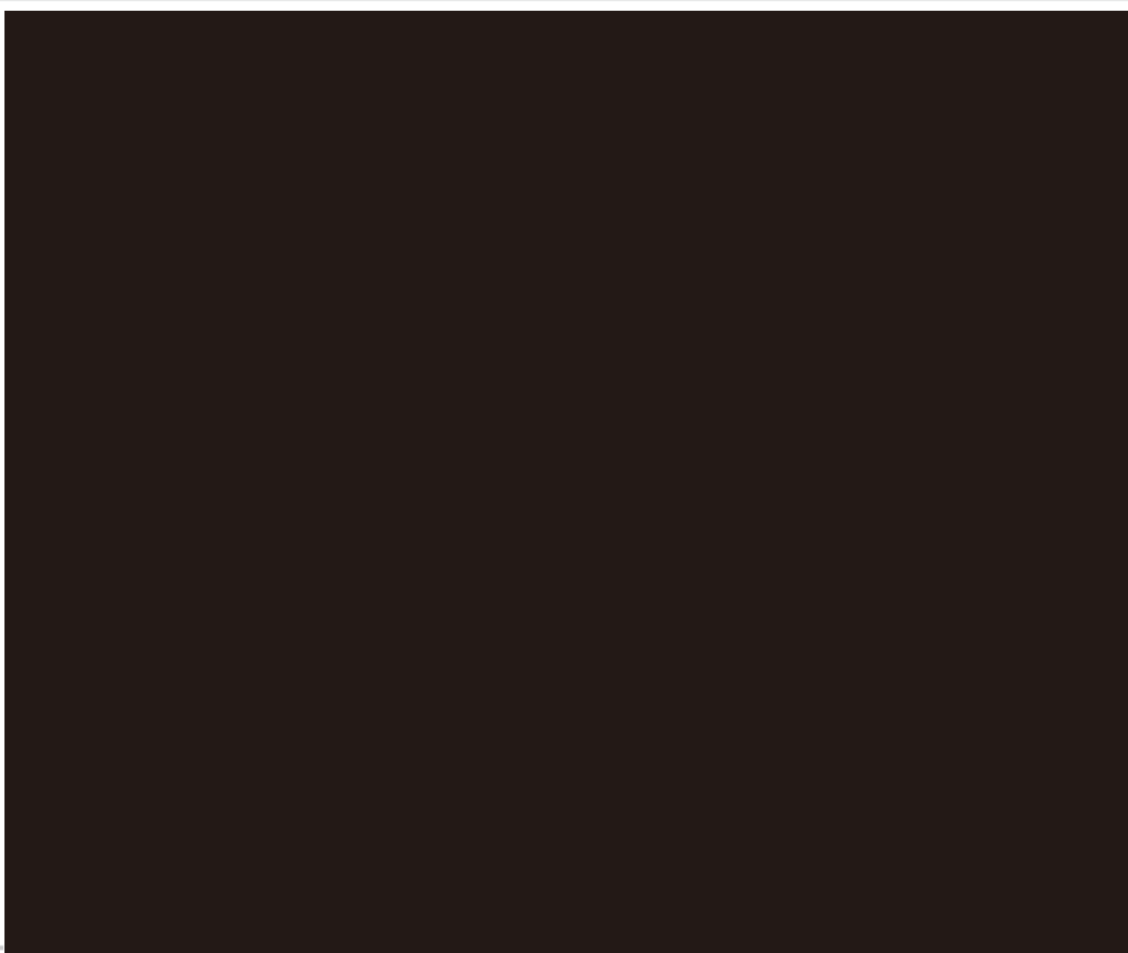
おり、仮名を学ぶ手本や、物の順序を示すものとして使われた。



練習問題 1

教科書 P. 157 ㉒. 2 ～ P. 159 ㉒. 2

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。



□ (1) — 線①「竹取の翁」の仕事はどんなことですか。現代語で二十五字以内で書きなさい。

(2) — 線②「あやしがりて、寄りて見る」について、次のⅠ～Ⅲに答えなさい。

□ Ⅰ 「あやしがりて」の現代語訳を文中から書き抜きなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

□ Ⅱ 誰の行為ですか。文中から四字で書き抜きなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

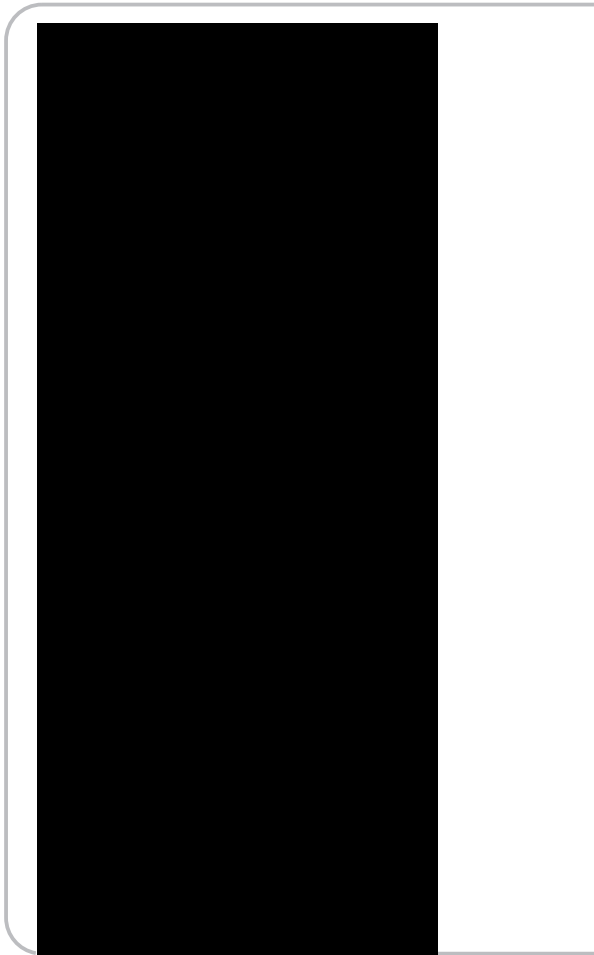
□ Ⅲ このようにしたのはなぜですか。現代語で二十字以内で書きなさい。

(3) — 線③「三寸ばかりなる人」について、次のⅠ・Ⅱに答えなさい。

□ Ⅰ この人はどこにいましたか。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

□ Ⅱ この人は、その後どうなりましたか。次の①～③について、説明しなさい。



□ ① 成長の様子

□ ② 姿かたちの様子

□ ③ つけられた名前

□ (4) — 線④ 「いとうつくしうてゐたり」の現代語訳を、次のように分けて文

中から書き抜きなさい。

いと うつくしうて ゐたり

(5) — 線⑤ 「人目につかない家に籠もって」について、次のⅠ・Ⅱに答えなさい。

Ⅰ 家に籠もったのは誰ですか。文中から二つ、七字と三字で書き抜きなさい。

□ Ⅱ 家に籠もったのは何をするためでしたか。

□	

定期テスト対策

教科書
P
156
~
169

実施時間のめやす ↓ 20分

得点

100点

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

□
(1) かぐや姫は、どこへ行ったのですか

(8点)

□(2) かぐや姫は、帝に、手紙と何を残していったのですか。

(8点)

(3) — 線①「どの山が天に近いか」について、次のⅠ・Ⅱに答えなさい。

□Ⅰ 帝が「どの山が天に近いか」と尋ねたのは、山で何をするためですか。
現代語で二十字以上三十字以内で書きなさい。(10点)

□Ⅱ 「天に近い」山はどこにありましたか。文中から四字で書き抜きなさい。

(8点)

- (7) — 線⑤「たくさん」とありますが、「たくさん」の古語に当たる言葉を原文中から書き抜きなさい。(5点)

- (6) — 線④「その山を『ふじの山』とは名づけける」とありますが、「ふじの山」と名づけられるきっかけとなったのは、どんな出来事ですか。現代語で三十字以上四十文字以内で書きなさい。(10点)

- (5) — 線③「うけたまはりて」の読み方を、現代仮名遣いに直して、全て平仮名で書きなさい。(5点)

- (4) — 線②「仰せたまふ」の主語に当たる人物として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。(8点)
- ア かぐや姫 イ 天人
ウ 帝 エ 士

チャレンジしてみよう

- 思考・表現 「蓬萊の玉の枝」を読んで、登場人物の思いや行動についてどんな感想をもちましたか。次の条件にしたがって、あなたの考えを書きなさい。
- 条件1 登場人物を一人選び、その人物の行動の中で印象に残ったものを挙げ、そのときの人物の思いについて、あなたの感想を書きなさい。
- 条件2 五十文字以上八十文字以内で書くこと。

- (8) この文章の内容と合うものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。(8点)
- ア 帝は、宮中へ召されることに応じないかぐや姫をとらえようと考えた。
イ 帝は、月の都の人たちと戦える兵士たちを天に近い山々へ送り込んだ。
ウ 帝は、天に近いところに行けば、かぐや姫に再び会えると考えた。
エ 帝は、この世にとどまる気がなかったため、不死の薬は不要と考えた。
- (2) 次の — 線の読み仮名を平仮名で、片仮名を漢字で書きなさい。(3点×10)
- ① 能力が劣る。() □② 戦いに挑む。()
□③ 祝いの品を贈る。() □④ 手を添える。()
□⑤ 筒に証書を入れる。() □⑥ 兄がケツコンした。()
□⑦ オソろしい顔の鬼。() □⑧ 丘のシャメン。()
□⑨ 賞をサズける。() □⑩ 城跡をオトズれる。()